

第2次検討ダムについて

先行河川：オツカバケ川

林野庁北海道森林管理局
根釧東部森林管理署

平面図

コンクリート床面
(H14北海道)
L=96.0
H=5.5m(2.5m)

No.2鋼製谷止

No.1鋼製谷止
(S53森林管理局)
L=71.5m H=4.8m

No.2鋼製谷止
(S44森林管理局)
L=49.5m H=4.8m

No.1鋼製谷止

No.2鋼製谷止拡大図

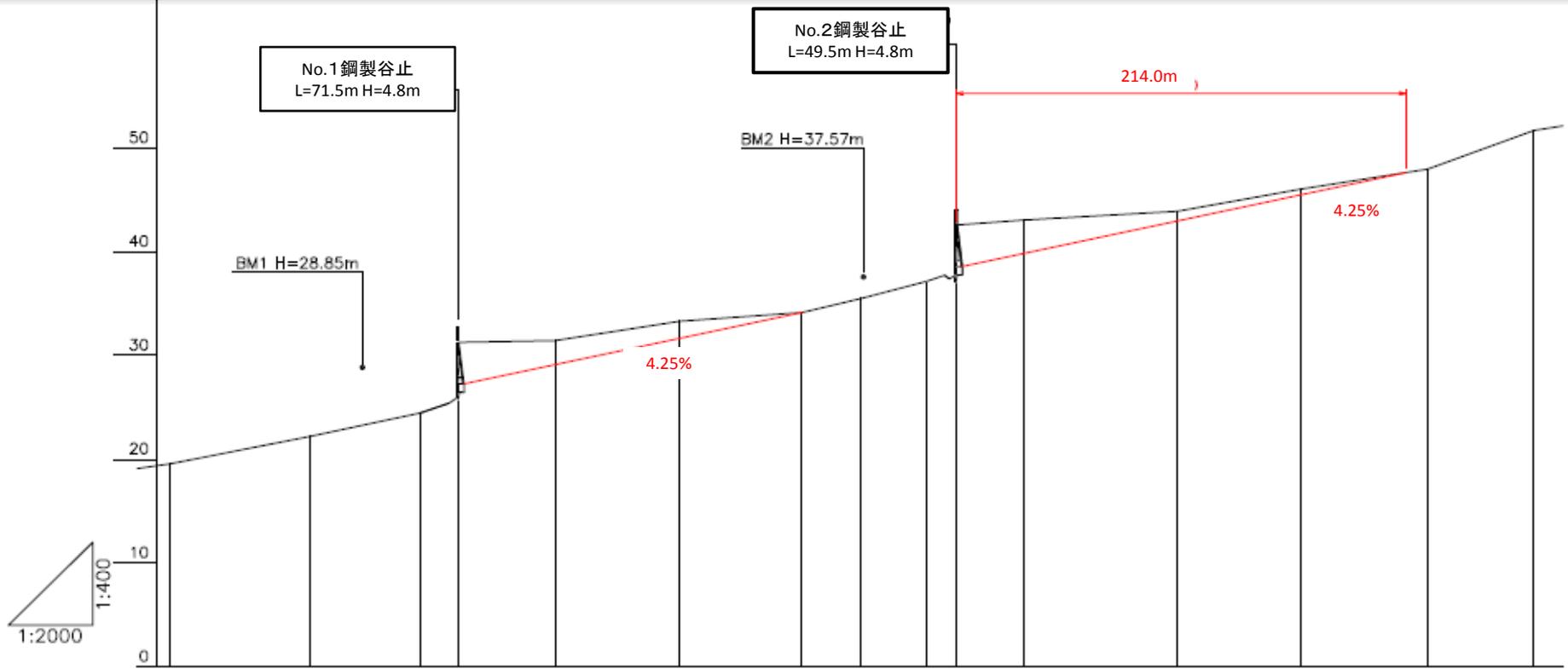
北海道所管治山ダム

橋梁(道道)

河川に隣接する人家

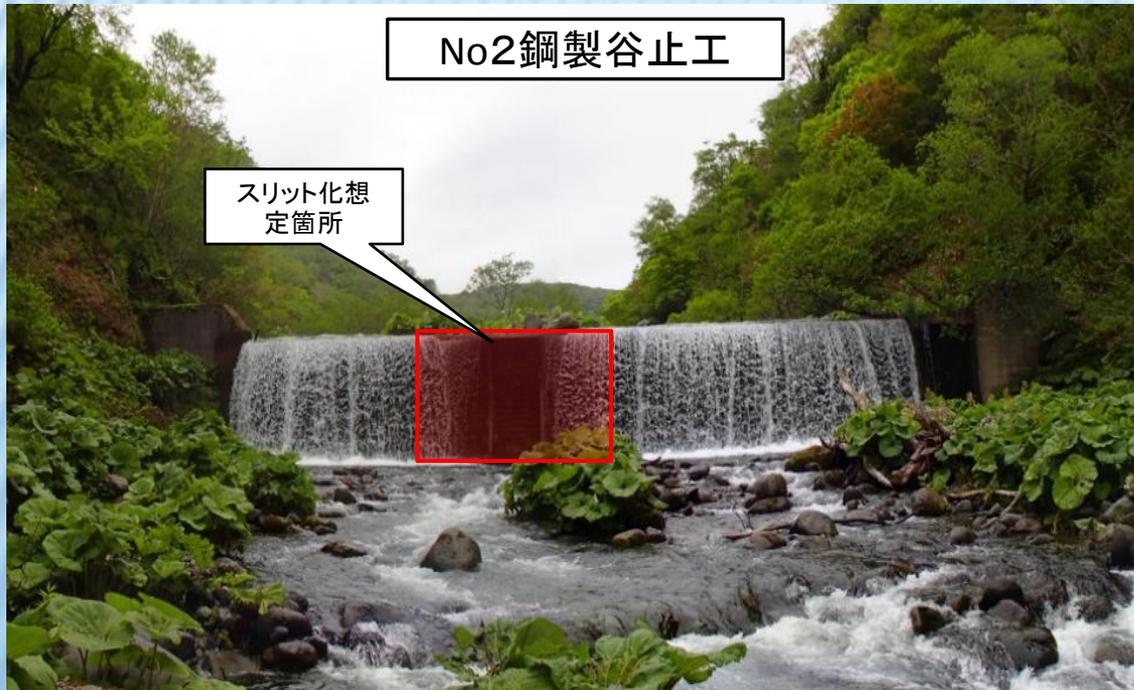
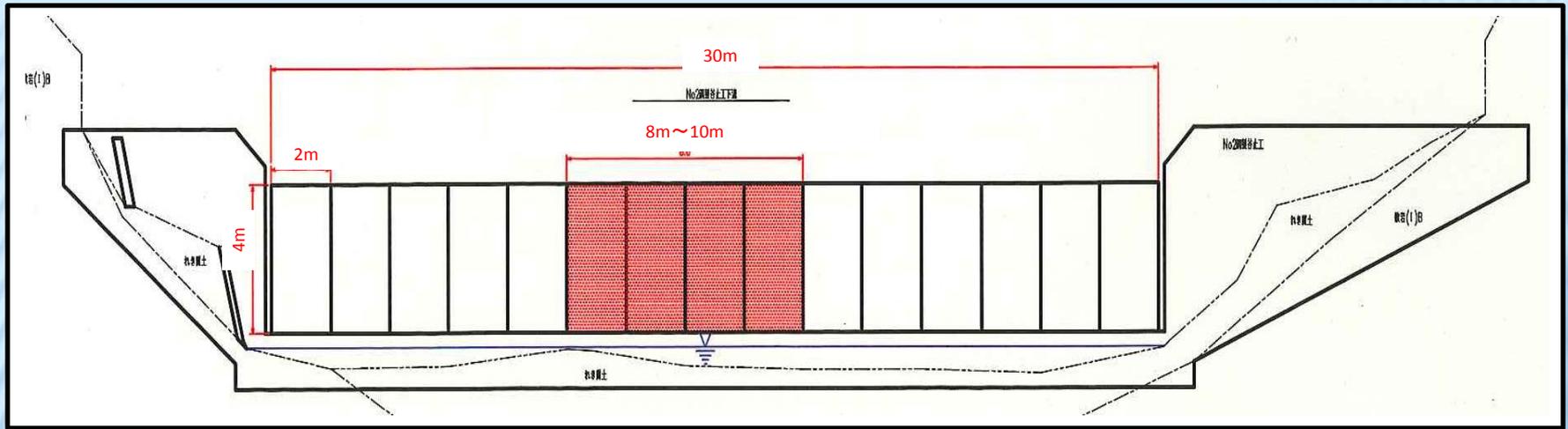
244株

縦断図



測点	No	No6	No7	No8	No9	No10	No11	No12	No13	No14	No15	No16	No17	No18	No19	No20
水平距離	m	69.6	66.4	52.6	18.0	46.0	59.2	58.3	28.1	31.1	14.1	31.6	73.2	58.6	60.3	50.5
追加水平距離	m	258.4	324.8	377.4	395.4	441.4	500.6	558.9	587.0	618.1	632.2	663.8	737.0	795.6	855.9	906.4
垂直距離	m	1.92	2.66	2.25	6.81	0.16	1.86	0.84	1.35	1.64	5.44	0.46	0.83	2.15	1.91	3.73
地盤面	m	19.53	22.19	24.44	31.25	31.43	33.31	34.15	35.50	37.14	42.56	43.06	43.89	46.04	47.95	51.66
計画面	m															
溪床勾配	%		4.1	8.0		1.8			4.8			1.3		3.4		7.4

No2鋼製谷止工(改良イメージ図)



1. 現在の検討状況について

- ①No1鋼製谷止は魚道工、No2鋼製谷止はスリット化で検討
- ②No2鋼製谷止のスリットの入れ方によって、滯筋の変化が想定されるとのアドバイスを頂いたため、No2鋼製谷止改良後に下流を確認後、No1鋼製谷止の詳細な改良方法を検討
- ③No2鋼製谷止基礎部の落差(30cm程度)の解消については、改良後に滯筋の変化と土砂の堆積状況等を確認後に解消方法について検討

2. No2鋼製谷止のスリット化について

- ①スリット幅は、洪水時に想定している現況の土砂調節量と同程度以上の土砂補足効果を得られる幅とする。

なお、現地諸条件を更に精査する必要があるが、洪水時における堰上げ高さや透過部の流量計算を試算した結果、スリット幅は中央部に約8m～10m程度になると想定

3. No2鋼製谷止部材の耐久性について

- ①鋼材メーカーによる現地確認の結果、現時点における部材そのものの耐久性については、早期に補修を行う必要のある劣化状態ではないとの見解である。
ただし、今後経年劣化による部材の健全性については、詳細な調査が必要
- ②スリット化によるダム安定計算を精査し、必要により部材の補強策を検討

4. 改良工事を実施するための留意事項

①地元との合意形成が重要

(下流住民、ホタテ、コンブ、サケ・マス等の各漁業者との合意)

- ・ 防災効果の維持
- ・ 工事は、できるだけ短期間(単年度)で終わらせてほしいとの要望

②工期が限定(工事可能期間 11月～1月)

- ・ 希少猛禽類の繁殖期間と漁業活動期は工事を回避

5.No2鋼製谷止改良工法の検討について

スリット化することにより堆積土砂が流出し、漁業者に与えるリスク(特にホタテやコンブ)が懸念されることから、以下の案を検討した。

第1案

「複数年かけて段階的にスリット化し、ダム上流部堆積土砂は自然流下させる」

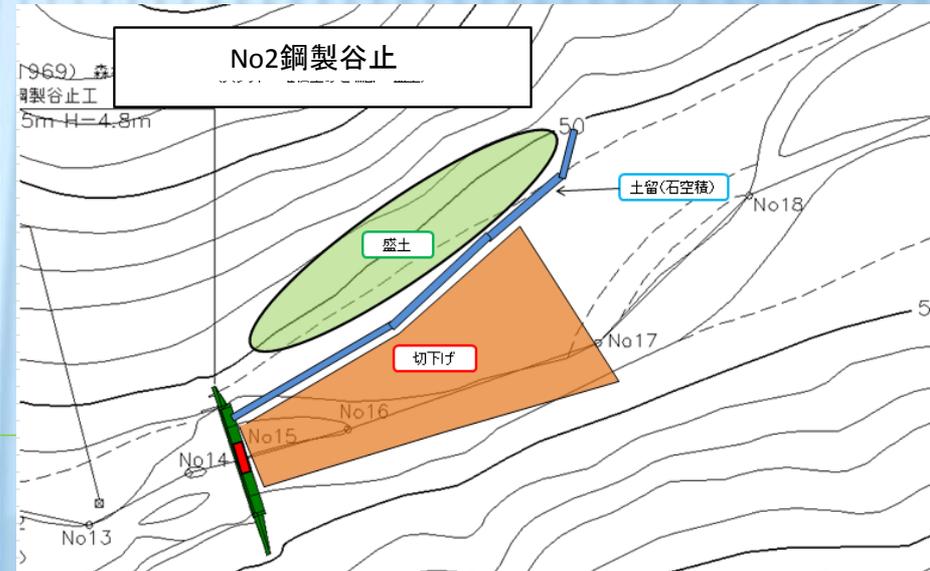


横材(スクリーン材)が14列入っている。

毎年3~4列ずつ撤去することで、4年で切り下げ完了となる。3列で、90cm程度の切り下げなので、年間流出量を抑えることができる。

第2案

「ダム上流部の堆積土砂は流出の懸念がない右岸山脚部に盛土し、空石積等による土留で固定する」



6. 各案検討のまとめ

\	1案	2案	考えられるリスク等
ダム上流部堆積土砂の取扱い	段階的に自然流下	ダム上流右岸側に固定	
下流に与える影響	ダムの土砂調節機能を維持しながらスリット化を進めることができる。	完成時に堆砂空間を確保しておくことで流出土砂の捕捉を図ることができる。	両案ともに施工に際して土砂の攪乱があることから、施工時・施工後において濁水の懸念があるが、汚濁防止施設を作設して対応する考え。
工事期間	単年度ごとの工期は短いですがスリット化完成までには複数年かかる。	単年度で完成できるが、工期は長く設定する必要がある。	2案では複数年かかることから、No1鋼製谷止改良の着手が遅くなる。

なお、実施にあたっては、さらなるリスク要因の洗い出しと、その対応、コスト縮減できる施工方法の検討等を行う考え。

漁業区域図

